

自分の成長を知ろう

～自己の変容を大切にした評価～

特別活動 第6学年

金沢市立三馬小学校・教諭

1 事例の概要

三馬小学校の子ども達は、全体的に素直で落ち着いて学校生活を送っている。また、エネルギーや行動力があり、互いに友達のよいところを認め合うという優しい面を持っている。しかし、反面集団の中では受身で、自己表現したり伝え合ったりするという力が弱く、自分らしさを発揮できず人の考えに流されてしまいやすいという傾向も見られる。子ども達による学級や学校の生活の充実と向上を図るためにも、互いの考えを尊重しながら、自発的・自治的な話し合い活動に向かうようにしたい。そのための指導の工夫や指導に生かす評価の在り方を探っている。また、本校の学校行事では実行委員会形式を取ることが多いが、特別活動の評価は、教科における知識・理解等の評価と違い、言動や態度などの変容を評価していくことが多い。特に一つ一つの学校行事の中で、細かな評価規準を設定するのは難しい。そこで、年間を通して、学校行事、学年行事を経験するたびに、その過程の中で自分を見つめ、自分の成長を知る良い機会と捉え、自己評価を中心に自己の変容を大切にした評価を行っていくこととした。

A-1 三馬小学校における特別活動について

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・運動会を通して、「今までの自分」「練習中の自分」「運動会後の自分」とその練習過程の中で自分を見つめ、自己の変容に気づき、自分の成長を知る。
- ・運動会に関する様々な話し合い活動を通して、学級への所属感、連帯感を高め、より自主的実践的な態度を育てる。

(2) 指導上の工夫点

① 指導法の工夫

最高学年として活動する学校行事に加え、学年行事や総合的な学習の時間での1年生との関わりの中で、最高学年としての自覚や責任、下級生への思いやりある行動、接し方を学ぶ機会となる。それらを実行委員会とし、一人一役となりすべての児童が実行委員会に関わることにした。また、実行委員会の進め方やどんなことを大切にするのかを明確にする必要があると考え、次のような取り組みを行った。

- ・学年黒板に各実行委員の活動時期・活動内容を明記し、いつ活動するのか自覚を促す。
- ・実行委員の連絡コーナーも設け、子ども達が自主的に活動できるよう意識を促す。
- ・実行委員会で使った「実行委員会記録用紙」「実行委員の振り返り」を掲示する。

さらに、話し合い活動の充実と学級会係（司会者）への指導の重視するために、次のことを行った。

- ・学級集団全体の高まりを評価するとともに、子ども達一人一人の力について評価、分析し、評価したことを一人一人の子どもに返すことによって指導を深める工夫をする。
- ・円滑な話し合い活動を進めるため、全体の流れを全員に確認し見通しをもたせた。また、「司会の仕方カード」を活用し具体的にイメージできるようにする。

② 評価の工夫

- ・低中高学年とそれぞれの発達段階に応じて、目標を段階的に高めていけるように考え、話し合い活動の評価規準を設定した。次に、評価の場面や方法、指導の手立てについて考えた。また、評価を次の指導に生かすことができるように、具体的な場面を考えながらまとめた。
- ・学校行事や学年行事での過程の中で自分を見つめ、自己の変容や成長を知り、その自己評価を大切にす。

B-1 実行委員会年間計画

B-2 学級活動での取り組み

B-3 話し合い活動評価規準

B-4 学年・学級経営方針

3 指導の実際

主な学習の流れ	○評価と◇支援
1 去年の運動会での6年生の姿を思い出そう ・団長として応援団をリードしていた ・6年生がわからないことをいろいろ教えてくれた	◇具体的な場面での6年生の姿を想起させる。 ○運動会の成功のためには何が大切か考えることができる。[発表]
2 運動会の成功のためにはどんなことが必要か話し合おう ・係活動に責任感を持って取り組むことが必要だと思う ・運動会の成功のために、いろんなアイデアをだす	◇ワーク「運動会を通しての自分の成長」に今の自分の気持ちや運動会を通して身につけたい力を書かせる。
3 運動会に向けての今の気持ちや運動会で付けたい力を考えよう ・今年は5年生をリードしたい(リーダーシップを身につけたい) ・責任感を持って仕事をする(責任感を身につける) ・応援団に入って、恥ずかしがり屋の自分を変えたい	

C-1 指導案

C-2 指導の実際とその工夫

C-3 運動会における指導の実際

4 成果と課題

(1) 成果

年間を通しての実行委員会を明記したことで、自分達で自主的に実行委員会を開き、教師がいなくても進めている実行委員会が多くあった。また、「実行委員会の振り返り」を見て、どんなことを話し合ったかを見ることで話し合いを円滑に進めることができた。

また、今の自分を見つめた後にめあてを書いたことや、「運動会に向けての決意」を最初には書かず、練習中や役割についての活動途中の自分を見つめ確認した上で書かせたことで、めあての内容も「自分に足りないものを身に付けよう」「長所を伸ばそう」という意識が見られた。また、活動途中に振り返りや自分を見つめ直したことで、少しずつ変化している自分や、もっとこうしたらいいなと思うなど、当日に向けての課題や今後の考え方にも変化が見られた。

(2) 課題

それぞれの係に分かれた時の活動や、リレーや応援などの自主練習、当日の動きなどについては把握できない場合も多かった。担当の先生方に聞いたり、逆に担当の先生から伝えてくれたりするなどして、ある程度の情報は入るが十分とは言えなかった。そのため、評価を子ども達の振り返りに頼る面が大きくなった。子ども達一人一人の学習状況をよりの確に把握し、評価に生かしていく方法を今後考えていきたい。